

氏名 (法人にあっては名称)	株式会社タカキベーカーリー広島工場
住所	広島市安芸区中野東三丁目7番1号
計画期間	令和 4 年 4 月 1 日 ～ 令和 7 年 3 月 31 日
基準年度(*1)	令和 3 年度

1 事業者の要件 ((1)、(2)については、特定年度(*2)における市内に設置された全ての事業所の合計量)

該当する事業者の要件	☒ (1)原油換算エネルギー使用量(*3)が1,500キロリットル以上 (特定事業者) ☒ (2)エネルギー起源二酸化炭素を除く物質ごとの温室効果ガス排出量(*4)が3,000トン以上 (特定事業者) ☐ (3)特定事業者以外の事業者
------------	--

2 事業の概要

事業者の業種	パン製造業 (主たる事業の日本標準産業分類における細分類番号：0971)
事業概要	1948年創業、パンを通じて「食卓に幸せを運ぶ」というキャッチフレーズを掲げてパン製造業を中心に営んでいる。2002年4月にグループ名をアンデルセングループに改名し2003年4月に分社し株式会社タカキベーカーリーを設立した。

3 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の実施状況等

(1) 温室効果ガス排出量の抑制に関する目標の達成状況

(※温室効果ガス排出量の下段は削減量の対基準年度比 $((a-b)/a) \times 100$ (aは基準年度の実排出量))

項 目	基準年度の実績 a	計画期間の目標 b	計画期間の実績 b			
	令和3 年度	令和4～令和6年度 (平均値)	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和4～令和6年度 (平均値)
温室効果ガス 実排出量(*5)	8,805 t-CO ₂	8,628 t-CO ₂	8,827 t-CO ₂	8,992 t-CO ₂	t-CO ₂	t-CO ₂
		2.0 %	-0.2 %	-2.1 %	%	%
温室効果ガス みなし排出量(*6)		8,628 t-CO ₂	8,827 t-CO ₂	8,992 t-CO ₂	t-CO ₂	t-CO ₂
		2.0 %	-0.2 %	-2.1 %	%	%
実績に対する 自己評価	生産量が増加している中、原油換算でのエネルギー使用量は前年比101.1%と抑えられていますが、温室効果ガス排出量は前年比増と非常に厳しい結果となっております。今後重油からLPGに燃料転換する等、検討していきます。					

*1 基準年度とは、温室効果ガスの抑制割合を比較する基準の年度であり、原則として特定年度(*2)とする。なお、基準年度の温室効果ガス実排出量(*5)については、事業活動の著しい変動等により特定年度が基準年度として適当でないときは、事業者の判断により、特定年度を含む連続した過去3か年度の平均値とすることができる。

*2 特定年度とは、計画期間となるべき期間の最初の年度の前年度をいう。

*3 原油換算エネルギー使用量とは、燃料の量並びに他人から供給された熱及び電気の量をそれぞれ発熱量に換算した後、原油の数量に換算した量の合算をいう。

*4 温室効果ガス排出量とは、二酸化炭素(エネルギー起源のもの及び非エネルギー起源のもの)、メタン、一酸化二窒素、ハイドロフルオロカーボン、パーフルオロカーボン及び六フッ化硫黄)の排出量を二酸化炭素の数量に換算したものを用いる。

*5 温室効果ガス実排出量とは、上記(*4)のうちエネルギー起源二酸化炭素の排出量と、それ以外の物質ごとの温室効果ガス排出量が特定事業者単位で3,000トン以上のものの排出量の合算をいう。

*6 温室効果ガスみなし排出量とは、上記(*5)に対して環境価値(*8)に相当する温室効果ガスの削減量等を調整したものをいう。なお、環境価値が活用されないときの温室効果ガスみなし排出量は、温室効果ガス実排出量と等しくなる。

(2) 事業分類ごとの原単位(*7)の抑制に関する目標の達成状況 (※任意記載)

(※原単位の下段は削減量の対基準年度比 $(a-b)/a \times 100$)

事業分類	基準年度の 実績 a	計画期間の 目標 b	計画期間の実績 b			
	令和3 年度	令和4～令和6年度 (平均値)	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和4～令和6年度 (平均値)
		%	%	%	%	%
		%	%	%	%	%
		%	%	%	%	%
原単位の指標及び 実績に対する 自己評価						

(3) 温室効果ガス実排出量の抑制に関する措置の実施状況

・工場内蛍光灯をLED照明器具に順次更新 ・工場内冷蔵庫の冷凍機更新 ・工場内空調機の更新 ・事務所棟、各部屋の空調温度の設定 ・エアコンプレッサー台数制御運転及び圧力設定の見直し ・工場エア配管の経路、取り回し変更 ・圧縮エアー及び蒸気の漏れ管理 ・機械設備の空運転防止 ・省エネ機器の熱回収コンプレッサー導入 ・排水処理場ブロワー更新（ルーツブロワーからターボブロワーへ）

(4) 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する措置の実施状況（環境価値(*8)の活用等）

無し

4 その他の取組の実施状況

・各設備及び掲示板等への掲示物による従業員の環境意識啓蒙 ・廃棄物の排出規制 ・工場内節約活動による全員参加の省エネに対する取組
--

*7 原単位とは、温室効果ガス排出量を生産量、延べ床面積等の当該排出量と密接な関係を持つ値で除したものをいう。

*8 環境価値とは、ワセツクレジット制度等により、温室効果ガスの排出削減等を行うプロジェクトを通じて生成される温室効果ガスの削減量等をいう。なお、温室効果ガスみなし排出量(*6)の調整対象となる環境価値は市内分とし、市長が認めるものに限る。

大規模事業所ごとの温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置及び目標の実施状況等

(※大規模事業所を設置していない事業者は提出不要)

事業所の名称	株式会社タカキベーカーリー 広島工場
事業所の所在地	広島市安芸区中野東三丁目7番1号
事業所の業種	パン製造業
事業の概要	パン及び洋菓子の製造業

1 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の実施状況等

(1) 温室効果ガス排出量の抑制に関する目標の達成状況

(※温室効果ガス排出量の下段は削減量の対基準年度比 $((a-b)/a) \times 100$ (aは基準年度の実排出量))

項 目	基準年度の実績 a	計画期間の目標 b	計画期間の実績 b			
	令和3年度	令和4～令和6年度 (平均値)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和4～令和6年度 (平均値)
温室効果ガス 実排出量(*4)	8,805 t-CO ₂	8,628 t-CO ₂	8,827 t-CO ₂	8,992 t-CO ₂	t-CO ₂	t-CO ₂
		2.0 %	-0.2 %	-2.1 %	%	%
温室効果ガス みなし排出量(*5)		8,628 t-CO ₂	8,827 t-CO ₂	8,992 t-CO ₂	t-CO ₂	t-CO ₂
		2.0 %	-0.2 %	-2.1 %	%	%
実績に対する 自己評価	生産量が増加している中、原油換算でのエネルギー使用量は前年比101.1%と抑えられていますが、温室効果ガス排出量は前年比増と非常に厳しい結果となっております。今後重油からLPGに燃料転換する等、検討していきます。					

(2) 温室効果ガス実排出量の抑制に関する措置の実施状況

・工場内蛍光灯をLED照明器具に順次更新 ・工場内冷蔵庫の冷凍機更新 ・工場内空調機の更新 ・事務所棟、各部屋の空調温度の設定 ・エアーコンプレッサー台数制御運転及び圧力設定の見直し ・工場エアー配管の経路、取り回し変更 ・圧縮エアー及び蒸気の漏れ管理 ・機械設備の空運転防止 ・省エネ機器の熱回収コンプレッサー導入 ・排水処理場ブロワー更新（ルーツブロワーからターボブロワーへ）
--

(3) 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する措置の実施状況（環境価値の活用等）

無し

2 その他の取組の実施状況

・各設備及び掲示板等への掲示物による従業員の環境意識啓蒙 ・廃棄物の排出規制 ・工場内節約活動による全員参加の省エネに対する取組
--